

## 研究紀要第 27 号の発刊によせて

学 長 佐 藤 三武朗

大学の使命は、学生の教育と指導にあります。とりわけ、本学は地域連携を主軸に、地域で活躍できる即戦力のある学生の育成を目指しています。

教員は教育と指導に研鑽を積むことはもちろん、より高度な目的を達成するために、斬新な研究の成果が求められます。教育と研究の成果が相まって、大学の評価が定まってくるからです。しかし、それだけでは充分ではありません。地域創世が唱えられる現在、地域における大学、とりわけ短期大学の使命は、従来の発想や認識と異なって良いと考えます。

本学は創立 25 周年を迎え、私は新たな出発を誓いました。地域連携とグローバル化を念頭に、さらなる研究成果を期待し、本学の未来の開拓の一助となるように祈念しました。

今回は、6 点の成果が発表されました。

論考を読んで、私は多くのことを学びました。研究紀要第 27 号の発刊は、教育と指導に専念する教員の大きな研究成果であると感じました。

論考の中から、私は本学の研究経営に資する内容を見つけました。同時に、6 編の成果を読んで、共同研究がもっとあってよいのではないと感じました。共同研究によって、本学の特性が発揮されるのではないのでしょうか。研究ノート、報告、エッセーなどの掲載も、次の研究に通じると、私は思うからです。

各フィールドの教員の熱心な教育と指導に、普段、私は注目しています。研究や実験が途中であってもいいから、その経過を掲載して欲しいと願っています。そうする事によって、お互いを知り、研究意欲を高め合えるのではないのでしょうか。

本学は 12 フィールドの専攻領域を有する、総合キャリア教育学科です。個々に研究成果を出して競い合うのも素晴らしいですが、各フィールドの枠を超え、叡智を結集する中で、研究や実験データの収集と分析をすることが本学の強みではないかと考えました。

研究紀要ですから、純粋な研究論文だけの掲載であっても構いません。次回はフィールドの専攻領域を超えた共同の論考も発表され、研究の場がお互いの盛んな研鑽の広場になればと望みます。